保育日誌の利用

石村紀子

○日誌には、どんな形のものがあるでしょうか

どこの幼稚園でも、いろいろな形で日誌をつけていらっしゃると思いますが、まあ一般には、教務日誌・保育日誌といった内容のものでしょうか。

私共では、教務日誌は、その日の幼稚園全体の出来事を記録することにしております。例えば、その日の保育形態（午前保育・通常保育の区別、合同保育、お誕生会など）、各級の出欠状態、園外保育、それに職員会議に出た話題、研究会や見学への出務、その他事務的な記録など。これをみただけで、その日の園全体の出来事、様子、職員の動向が、はっきり分るように記録されます。そのためには、各級・各教師間の密接な連絡が必要になってきます。「和子さんのお母さまが、急にお迎えにいらしたのよ。A組いないけれど、何処へ行ったの？」「主任先生にきけば？」では、困ります。私共の園では、全部の教師が、かわりあって、これをつけるようにしています。とかく、自分の級の子どもたちばかり見つめてしまいがちな目を、園全体へ向けるようにさせるのに、たいへん役に立っております。

保育日誌は、ご存じのとおり、担任の級だけの一日の記録です。その他に、私共の園では、個人記録をかいております。これは、級の子どもたち一人ひとりについてのこまかい記録です。

『○月○日　園外保育（小石川植物園）

みんなが元気に走りまわっているのに、木の下のベンチにひとりぽつんと坐っている。何をしているのかと思ったら、木の実を拾っていた。「13個拾っちゃった」と手のひらの木の実を数えてみせてくれた。』

このように、出来るだけくわしく、一日の行動が、一人ひとりについて記録されます。問題行動を持っている幼児は、毎日でも書きます。そして、一週間の間一度も記録されなかった子どもについては、どうして書くことがなかったのだろう、と次に観察いたします。こうしていけば、教師の目からこぼれる幼児も全然いなくなりますし、一人ひとりの性格をも、しっかりつかむことが出来るようになります。全体的にみていては見落しがちな、子どもたちの思わぬこまかい心情を汲みとることが出来ることもあります。といって、余りくわしくは時間的にかけませんので、私共の記録の方法は、ごく簡潔に日時と行動を記す形式にしております。

○保育日誌は、どんな書き方がよいのでしょうか

さて、その中で一番私共に切実な保育日誌について、日頃感じていることを書いてみたいと思います。

毎日書いている保育日誌も、後から読み返してみると、なかなかおもしろいものです。うっかり何日分もためてしまって、さぁて、何があったかしらん、と思いだし思いだし書いたものや、ていねいだが、虫眼鏡でも欲しいような小さい字のぎっしりつまった読みにくい日誌、暑いあついと、いやいややっとかきあげたものなど、いろいろに書いた時の様子が想像されて、思わず、ニヤリ、としてしまったりします。

勤めて日の浅い頃には、どんなふうに書いたらいいか、など考える余裕もなく、胸一杯の感想を書き表わすだけが精一杯でした。

「誰もかれも、たまらない程かわいらしい。……子どもたちと精一杯あそびまわり、本当に楽しい一日だった。……全くおしゃべりが多い。一体どうしたら静かになってくれるのだろう。……」などなど。

新鮮な驚きの気持、精一杯あそびまわった楽しい感想、実際に子どもたちにぶつかってみて起こされる戸惑い、疑問などを、浮かんでくるままに書きつづったものでした。

だんだん慣れるにつれて、書き方も変ってまいりました。先輩の先生方の日誌を、ふとした機会に読んでみたこともたいへん勉強になりましたし、同僚の先生方の日誌を読んで、自分では気づかなかったことを教えられたりもしました。同じものをみていても、小さいところにまで気を配って書いている人、ひとりの子どものみに捉われて、子どもたち全体の動きに目を配っていない人、慣れすぎてしまったことが、かえって害をし、安易に経験だけで判断して書いてしまっている人など、書く人により、少しずつ異っているものです。また、記録をする場合に、いろいろ出て来た疑問など、そのまま疑問として書く前に、誰かと話し合ってみることもあるでしょ

う。その話し合いによって、問題の解決の方法が生まれることもありますし、たった一つの現象でも、いろいろな見方、考え方が出ることを知るのも、大切な勉強ではないでしょうか。

また、研究会などで、諸先生のお話を伺うことも、自分の日誌を反省してみるのに良い機会になりました。

保育日誌のかき方について、まず大切なのは、絶対に主観的な感想文であってはいけない、それでは、いつまでたっても成長しないということです。

子どもたちのその日の状態、予定した教材への反応の仕方ばかりでなく、毎日のわずかな変化、成長をも見落さずに記録する注意深い態度が必要です。そうした子どもたちの全体の動きに、注意深く目を配ると同時に、一人ひとりをも、また、見のがすことのないように充分気をつけたいものです。

また、その日の目標が何処まで達せられたか、その要求に無理なところがなかったか、準備に手落ちがなかったか、予定が盛りだくさんすぎはしなかったか、時間的に無理がなかったか、予定通りに運べたか、または、予定通りに運ばれなかったのは何処か、など、その日一日を静かに振り返ってみての充分な反省も忘れないようにしたいものです。

ひと口に、保育日誌といっても、園により相当異っていると思います。メモ式の簡単なものから、非常にこまかい観察記録式のもの、または、反省批判式のものまで、いろいろに園独自のものが考えられていると思います。私共の園は、半紙大の用紙に、その日の目標と予定、準備、実際に実施したこと、こまかい観察の記録、反省などを書くようになっています。以前は用紙もその半分で、もっと簡単なものだったのですが、それではどうしても充分な記録が書けませんので、大きくしました。これですと、その日の予定、実施したこと、その日の保育の目標、内容、それが適切であったかどうかの反省など、一目りょう然と分りますので、後から読み返すにしても、他の人が読むにしても非常に便利です。綿密に記録しだすと、なかなか長くなり、これでも枠外にはみだすことたびたびです。

そして、園全体、級全体の動きをわかっていただくために、何時でも要求があれば、父兄にお見せしております。参観日などには、個人記録とともに、よく読んで下さっています。これは、保育日誌の利用の一つでもあります。どんな事を目あてにして生活がおくられているか、父兄によく知っていただくために、いろいろな事がなされますが、教師の反省を見ていただくことは、案外園を知ってもらうことになるようです。書く側からいえば負担ではありますが、人が読んでも分るように、また、愛情に偏よりはないか、と気を配ることにもなってきております。

○保育日誌は、どんなふうに利用されるでしょうか

（A）　保　育　日　誌

父兄におみせしたり、お互いに読んだりすることは前に述べまし

た。その他、私共の園では、何年間かの保育日誌を基にして、いくつかの研究もしてきました。

今まで、あまり手をつけられていなかった三才児組の状態などもこの日誌を基にしてまとめあげました。

四月〇日

だいぶ、大泣き、長泣きをする子がなくなった。……レコードの曲を聞きながら、一列になって歩くことが、だいぶ上手になったが、まだ足を高くあげることは無理である。……今日初めて生活発表をしてみたが、まだこのような形式をとることは無理なようである。……

これは、四月中頃の日誌の一部分です。次に、五月の中頃の日誌をみてみましょう。

五月〇日

クラスのまとまりが、少しずつみられてきた。……巧技台を使っての遊びは非常によろこび、相当時間つづいた。しかし、渡り方は、まだ四つん這い、または横渡りが殆んど。……お帰りの前に人形を使って赤ずきんのお話をしてみせた。内容を把握するのはまだ無理、人形の出入りをおもしろがる。……

以上、たった二日の日誌ですが、一か月間の子どもたちの状態の変化、運動能力の発達などが、はっきりわかります。

このようにして書かれた一年間の毎日の日誌をながめてみますと、製作一つ、遊びの状態一つにしても、その発達の段階がはっきりと、手にとるようにわかってまいります。

これを、全体の傾向、運動能力、生活発表、お話、質問による思考・感情の変化、絵画、製作、粘土、楽器、遊びと競技、ごっこ遊び、園外保育、などの各項目別に、その発達の流れをみてみますと、三才児組のこまかい発達の全貌がはっきりしてくるわけです。このことについては、「三才児組の保育材に対する適応の変化」として、ここ二、三年、東私幼、保育学会などで発表いたしましたので、ご存じの方も多々あることと思います。

この場合、せっかくの保育日誌が、主観的な感想文であったらどうでしょうか。

〇月〇日

今日は〇〇へどんぐり拾いに行った。たくさんの落葉の下を、子どもたちといっしょに、あちこちさがしまわった。拾ったどんぐりの数は少なかったが、とても楽しい一日だった。……

〇月〇日

寒いので、みんなストーヴのまわりに集って、おせんべいがやけた、ずいずいずっころばし、などをしてあそんだ。楽しいひとときだった。……

よんでいておもしろいことは、おもしろいのですが、作文としては及第でも、観察記録としては、落第でしょう。幼児の種々の保育材に対する適応の変化を、客観的に、鋭く（正確に）とらえたものでなくてはならないのです。このようにして、今は三才児組ばかり

でなく、三年保育、二年保育の各組についても、同様のことを調べ、まとめております。

おおかたの園では、既製の標準発達段階に従って、毎日のカリキュラムを組まれているようです。しかし、地域により、また、背景となる家庭環境により、子どもたちは少しずつではあっても、異っているはずです。自分の園の子どもたちの本当の姿を正確につかむことなしに保育計画をたてている状態ではないでしょうか。今までの保育日誌（それが正確な観察記録であれば）をこのように利用すれば、その園独自の発達の傾向がしっかりつかめるのです。

（B）個人記録

また、私共の園では、幼稚園を巣立っていった子どもたちが、その後どうなっているか、をくわしくしらべて「在園時の記録と進学後の傾向」と題して、保育学会で発表もいたしました。これは、卒園した子どもたち一人ひとりについて、在園の時の状態（知能・性格・興味など）と、就学後の状態（知能・性格・学業成績など）とを比較調査して、今後の保育の参考とするためにまとめたものですが、五、六年前には、まだ現在の個人記録が出来ておらず、指導要録や一学期ごとにつけている生活の記録（テストの結果、知的能力、社会性、健康の習慣などを分りやすく評価したもの）、それに担任だった先生方のお話などを参考にして、その子どもの在園時の状態を調べあげたものでした。もしも、個人記録がもっと以前から記録されていたとしたら、どんなに便利であっただろうか、また、より正確なくわしい状態がわかったのではないか、と残念でなりません。

さて、以上の事は、日誌の利用のほんの一例にしかすぎません。いろいろ考えていただければ、もっと活用の仕方が出て来ることでしょう。毎日、早く帰りたいな、と思いながら、一生懸命一日の出来事を思いだし思いだしつけた日誌を、多くの場合、読み返すことすらなく、ほこりの中に積んでおくのでは、実際、もったいないことだと思います。

○あとがき

日誌の利用、などといわれると、何か研究につながらなければならないように考えがちですが、絶対そうではありません。

他の人の日誌をよんで、自分の見方の足りなさ、子どもの状態をつかむ力の足りなさに気づくことも、その人の保育者としての将来にどれ程プラスになるかわかりません。

こうして、お互いにたかめあっていくことこそ、もっとも大事なそうして必要な利用法であると思うのです。

研究も、勿論良いことです。しかし、それが、研究のための研究にしかすぎぬのならば、これは余り良い利用法とはいえぬように思います。

保育の場にあるものにとっては、それによって今までの保育をよりたかめていくことが出来て、はじめて、本当の研究といえるのではないか、と思いますから。

（神田寺幼稚園）